



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	82,444	2.8	3,278	13.3	3,239	11.8	2,654	29.5
28年3月期第3四半期	80,178	4.7	2,895	37.1	2,898	12.8	2,050	32.8

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 3,638百万円 (87.2%) 28年3月期第3四半期 1,943百万円 (6.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	110.50	ー
28年3月期第3四半期	84.67	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	73,003	39,930	54.7	1,662.07
28年3月期	67,792	37,562	55.4	1,563.50

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 39,930百万円 28年3月期 37,562百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	ー	8.00	ー	9.00	17.00
29年3月期	ー	9.00	ー		
29年3月期（予想）				9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,000	2.2	4,600	5.3	4,700	13.2	3,500	34.3	145.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	27,700,000株	28年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	3,675,420株	28年3月期	3,675,149株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	24,024,655株	28年3月期3Q	24,212,898株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中でありませ

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(2) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の不確実性の高まりや株価と為替の不安定な動きによる影響を受けながらも、政府主導の経済政策や金融緩和の継続により雇用情勢や所得環境の改善などが続き、緩やかな回復基調で推移いたしました。

菓子・飲料・食品業界は、個人消費の拡大が期待されたものの、社会保障などを含めた先行き不透明感による節節志向が継続し、価格と品質に対する消費者意識の高まりが見られました。

このような中、当社グループは一貫して、食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。

具体的には、女性の活躍推進や、単身・シニア世帯、共働き家庭の増加などによるニーズの変化等への対応により、消費者が求める価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせて企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、ファミリーサイズ商品群やスイートセレクションシリーズ、小箱チョコレート商品群などが好調に推移したことから、ビスケット品目、チョコレート品目、米菓品目などが伸張し売上高は前年同期を上回りました。また、利益面では、売上高の伸張とコスト削減、生産性の向上、経費の効果的使用に取り組んだことなどにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益はともに前年同期を上回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は77,813百万円（対前年同期比102.3%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。ツイスト形状のバターパイ「サクリス」を発売したエクセレントスイーツシリーズならびに「ブランチュール」や「ガトーレーズン」などに好評をいただいたスイートセレクションシリーズがともに伸張しました。また、季節に合わせた商品展開として、いも・栗・かぼちゃフェア、ホワイトフェア、いちごフェアなどを実施し、「ミニバームロール」や「ロアンヌ」などのマイベネフィット商品群、「アルフォートFS」や「ミニシルベヌFS」などのファミリーサイズ商品群も大きく伸張しました。一方、米菓のロングセラー商品「羽衣あられ」をリニューアルしたほか、「揚げ柿種から揚げ風味」や「チーズ柿種&チョコ柿種」などを発売し米菓商品群が好評をいただきました。加えて、小豆やきなこなどの和の素材を用いたチョコレート商品に取り組むとともに、独自のカラーリング技術による新ボンボンショコラ「パレットアートチョコレート」にブルンドミルクを発売するなど品揃えの強化も図りました。チョコレートのファミリーサイズ商品群や小箱商品群、バッグサイズ商品群などが好調に推移しました。

さらに、当社初のアンテナショップ「パティスリーブルボン」を、東京駅一番街の「東京おかしランド」において期間限定でオープンしました。「ラングレイス」や「ルマンドアソート」など特別に仕立てたクッキーの限定商品を品揃えし、大きな反響をいただきました。ビスケット品目のほかチョコレート品目や米菓品目などが伸張したことから全体でも前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は4,630百万円（対前年同期比111.9%）となりました。

飲料・食品品目は、健康志向を受けて濃厚でまろやかな「おいしいココナッツミルク」が好調に推移しました。また、販売ルートの拡大などにより「牛乳でおいしく冷たいココア」ならびに「牛乳でおいしくホットなココア」の各シリーズが伸張しました。マルチスタイルスイーツ「スライス生チョコレート」では、拡販を図るとともに新しい食のスタイルを訴求したテレビコマーシャルを実施しました。一方、地震災害をきっかけとした防災意識の高まりから、缶入りの保存商品に継続した関心をいただきました。機能性食品は、機能性表示食品「カラダみらい」シリーズの拡販や栄養調整食品「スローパー」シリーズの取り扱いの拡大に取り組ましました。品目全体では前年同期を上回りました。

新規参入した冷菓は、「ルマンドアイス」の供給安定化を図り、販売エリアを一時休止させていただいた北陸3県（富山県、石川県、福井県）での販売再開に加え、年末には“東京でもルマンドアイスが買える特別な2週間”を「パティスリーブルボン」で企画し大変好評をいただきました。

その他品目では、通信販売事業は、機能性表示食品を加えるなど品揃えの充実と利便性の向上に取り組み、顧客の拡大とリピーターの増加に努めました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による効率性の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、輸出用商品への取り組みに加え、クラフトビールへの関心が継続するなか、受託生産などが好調に推移し前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は82,444百万円(対前年同期比102.8%)、営業利益は3,278百万円(対前年同期比113.3%)、経常利益は3,239百万円(対前年同期比111.8%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,654百万円(対前年同期比129.5%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は73,003百万円となり、対前連結会計年度末比5,210百万円の増加となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金の増加および新潟工場等の設備投資に係る固定資産の増加があったことによるものです。

負債は33,072百万円となり、対前連結会計年度末比2,842百万円の増加となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金の増加および新潟工場等の設備投資に係る未払金の増加があったことによるものです。

純資産は39,930百万円となり、対前連結会計年度末比2,367百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および為替換算調整勘定の増加と、子会社株式の追加取得による資本剰余金の減少があったことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する説明)

営業活動によるキャッシュ・フローは3,545百万円の収入(前年同期4,020百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,819百万円および減価償却費2,579百万円と、法人税等の支払額1,693百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,824百万円の支出(前年同期2,087百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,579百万円と、貸付金の回収による収入484百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,655百万円の支出(前年同期1,273百万円の支出)となりました。これは主に、連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出838百万円および配当金の支払額426百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第3四半期連結会計期間末に比べ168百万円減少し、13,644百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ951百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年4月27日の「平成28年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間から適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(2) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,459	13,501
受取手形及び売掛金	12,797	14,592
有価証券	136	143
商品及び製品	3,475	3,907
仕掛品	468	443
原材料及び貯蔵品	2,727	2,811
その他	1,456	1,175
貸倒引当金	△21	△26
流動資産合計	35,499	36,550
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,466	11,233
機械装置及び運搬具(純額)	7,847	8,238
その他(純額)	7,466	9,920
有形固定資産合計	25,779	29,391
無形固定資産		
のれん	1,548	1,463
その他	438	387
無形固定資産合計	1,987	1,850
投資その他の資産		
その他	4,526	5,210
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	4,526	5,210
固定資産合計	32,293	36,452
資産合計	67,792	73,003

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,224	12,184
短期借入金	1,720	1,699
未払法人税等	1,105	481
賞与引当金	1,054	365
返品引当金	45	38
資産除去債務	8	1
その他	8,911	11,216
流動負債合計	23,069	25,986
固定負債		
長期借入金	129	—
役員退職慰労引当金	230	244
退職給付に係る負債	5,856	5,883
資産除去債務	2	—
負ののれん	23	21
その他	917	936
固定負債合計	7,160	7,085
負債合計	30,229	33,072
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,628	6,790
利益剰余金	30,806	33,028
自己株式	△940	△941
株主資本合計	38,531	39,914
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	278	626
為替換算調整勘定	△762	△239
退職給付に係る調整累計額	△484	△370
その他の包括利益累計額合計	△968	15
純資産合計	37,562	39,930
負債純資産合計	67,792	73,003

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	80,178	82,444
売上原価	47,075	48,311
売上総利益	33,102	34,133
販売費及び一般管理費	30,207	30,854
営業利益	2,895	3,278
営業外収益		
受取利息	10	3
受取配当金	57	55
負ののれん償却額	1	1
その他	102	61
営業外収益合計	172	122
営業外費用		
支払利息	24	7
減価償却費	8	12
為替差損	123	128
その他	12	12
営業外費用合計	168	161
経常利益	2,898	3,239
特別利益		
固定資産売却益	0	9
投資有価証券売却益	1,129	665
特別利益合計	1,129	674
特別損失		
固定資産処分損	40	54
減損損失	368	28
移設関連損失	381	—
その他	32	11
特別損失合計	823	93
税金等調整前四半期純利益	3,204	3,819
法人税、住民税及び事業税	1,104	1,076
法人税等調整額	49	88
法人税等合計	1,154	1,164
四半期純利益	2,050	2,654
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,050	2,654

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	2,050	2,654
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△281	347
為替換算調整勘定	95	522
退職給付に係る調整額	79	113
その他の包括利益合計	△106	984
四半期包括利益	1,943	3,638
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,943	3,638
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,204	3,819
減価償却費	2,558	2,579
のれん償却額	85	85
受取利息及び受取配当金	△68	△58
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	24	7
為替差損益 (△は益)	108	48
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,129	△665
固定資産処分損益 (△は益)	40	45
減損損失	368	28
移設関連損失	381	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,350	△1,852
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△211	△515
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,112	1,998
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△646	△687
その他	313	354
小計	5,790	5,185
利息及び配当金の受取額	66	60
利息の支払額	△24	△7
移設関連損失の支払額	△73	—
法人税等の支払額	△1,739	△1,693
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,020	3,545
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	16	484
有形固定資産の取得による支出	△3,625	△3,579
投資有価証券の取得による支出	△81	△476
投資有価証券の売却による収入	1,592	796
その他	10	△48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,087	△2,824
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△838
長期借入金の返済による支出	△150	△150
リース債務の返済による支出	△327	△239
配当金の支払額	△395	△426
自己株式の取得による支出	△400	△0
その他	—	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,273	△1,655
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	△16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	643	△951
現金及び現金同等物の期首残高	13,170	14,596
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,813	13,644

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。